

聖書之真理

第四十七號

九月號

主筆 江原萬里

私が無教會主義を唱へない理由

主筆

イスラエルの預言者

江原萬里

エレミヤ記の研究

江原萬里

エレミヤの生涯(上)

基督教の中心

江原萬里

順禮父祖の信仰と吾人の使命

山楯儀市

輓近考古學と舊約聖書

小栗襄三

アブラハム時代

柏木通信

齋藤宗次郎

世事感想 編輯餘録

昭和六年九月一日發行

昭和三年二月十六日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

世事感想

○世界到る處第二の大戦争到来の豫感に脅えて居る。又經濟界は不振を極めて生活の不安に襲はれて居る。産業の不振挽回は軍備の縮少より外途なく、然かも大戦争到来の危惧を前にして之を斷行することが出来ない。このザレムマの原因は世界の大戦に在り、其の後仕末に在つた。今や大戦前旭日の勢を以て世界に覇を企てたドイツは見る影だにもなき姿となつたが、大戦の罪を悉く之に歸し、ドイツの賠償金を以て己が罪の尻拭をして居る聯合國の無責任我利が此の大不況と大戦來の危惧を醸して居るのである。

○財政改革、行政改革、教育改革と改革の聲は喧騒を極め改革の實はほとんど擧らない。それは何人も他人に改革の功を擧げさせ度くなく、自分に功を奪ひ度いからである。政黨政派に一致するところなく、互に相手のけちをつけるのは之である。何人も眞に天下の衆生の安危を思はず一身の利益から出立する。結局人々をして改革は駄目、革命以外に善き社會の出現の途なしと考へしめる。これがため革命の手段として階級闘争を激成しやうと企てるものが次第に多くなりつゝある。然し乍ら憎惡を激發せしめて其の中から理想的融和の新社會を期待する事は火を焚いて其の中から雪を求めよよりも尙難い。人を憎まば人も憎む。憎惡は憎惡を生んで果しなし。階級闘争の手段を以て理想的社會の出現を期待する位馬鹿げた事はない。

○自分は人から常に憎まれ攻撃され迫害されて居ると云ふ脅迫觀念に襲はれて居る者を時々見受ける。これは一種の精神病者である。基督者が十字架を負ふ貢ふと口癖に云ふのは健全な精神ではない。やたらに戦ふ戦ふ貢ふもそうである。踏み躪る者をして踏み躪らしめよ。その足の下に在つて無言に彼を救せ。これが眞にキリストの證し人である。女々しくあらざれ、大膽なれ。『愛に懼なし。全き愛は懼を除く。懼には苦痛あり。懼るゝ者は愛未だ全からず』(ヨハネ壹書四・一八)である。

○基督教の極意は正義の貫徹に在る。但しこれだけでは律法主義のユダヤ教と異なるところはない。基督教が道徳的に有つ顯著な特色は其の方法を明示したところにある。人は皆自分の保全と發展を願ひ、そのためには他を顧みず、他人を害することすらなす。正義は常に蹂躪されるのである。然るに神に對する此の罪のため苦しみつゝ、相手の不義を赦すこと、惡しき事は我身に善き事は他に、これで正義が立て通うせる。之が基督教である。

反對者は云ふであらう。若しそんな事をして居ては自分は滅びて仕舞ふではないか。だから基督教は資本主義の擁護者であること云ふのだ。否、君は神がキリストをその死から甦らしめしに榮光を與へ全世界の主と給ふたことを知らない。キリスト再び死し給はない限り最早我等は滅びないのである。勝利は確實である。

聖書之眞理

第四十七號

昭和六年九月一日發行

私が無教會主義を唱へない理由

主 筆

本誌發行以來滿四年の今日に至るまで私は、『無教會主義』を唱へた事はない。今後もしも唱へないつもりである。それは教會を憚るからでは勿論ない。又好む教會に通じ様と思ふからでは毛頭もない。教會は私如きものを相手にせず、小と雖も私も亦教會如きものを相手にして居ない。それ故に私は無教會である。されど無教會主義を高唱しない。無教會主義とは内村先生の創始にかゝる主義である。それは理論でなくして先生自身の生涯の最も華かなる一色彩であつた。先生は云はれた。

私は無教會主義を唱へた。今より三十年前、人が未だ之を唱へざる時に唱へた。殊に教會が今の如くに衰へず、教職と宣教師とが今より遙かに強い時に之を唱へた。當時そのとき無教會主義を唱ふるは嘲けられ、譏られ、信者全體より仲間はずれにされる事であつた。私は當時此の主義を唱へて孤獨は當然免がれ得なかつた。まことに苦しい幸なる時であつた（内村鑑三追憶文集）。

先生が無教會主義を高らかに唱へられた頃は何人も教會に頼らねば傳道者は生活する事は殆ど不可能の時であつた。國人よりは國賊としてきはれ迫害せられた時であつた。そして教會に頼ることは外國の傳道會社とその派遣した宣教師に隸屬する事を意味した。先生は餓狼を前に彼等から精神的に又經濟的に獨立を唱へたのであつた。これは福音の純正と我等の精神的獨立上必要であり、其のために尊き貢獻であつた。これがための尊き

犠牲が先生の無教會主義であつた。

今や時勢は變化した。政府はマルクス主義の防
壓のために基督教を利用しやうとし、我等は教會
に頼らずとも傳道に何の支障もなく、教會から放
逐されても昔のやうに生活に窮しくなくなり、無教
會主義を唱へれば信者は其の新奇を歓迎する時こ
なつた。かゝる時此等の教會に對して無教會主義
を唱ふるのは大人げない。私の現在の位置よりせ
ば寧ろ無教會主義を唱へる方が都合がよい。然か
も之を高唱しないでそれらの人々から排斥される
方がより以上に無教會的である。之が無教會主
義を唱へない理由である。

内村先生が其の當時無教會主義を唱へ月は東と
云はれたとて月が既に西山に傾きつゝある時同じ
口眞似をして月は東と云ふならばそれこそ傳統主
義の愚をなすものである。我等は信仰に由つて新
時代には新たな行動を採るべきである。之を無

教會主義と云ふても差支はないがそれは内村先生
の無教會主義と餘りに紛らはない。自分の獨創に
は他の名稱を以て呼ぶを可とする。それが眞の無
教會主義である。

無教會主義を唱へずしてエレミヤは無教會であ
つた。彼は其の先生イザヤの傳統によらず直接神
の言を語つた。爰に彼の獨創獨行があつた。そし
てイザヤに語り給うた同じ神が彼に語り給うて此
の兩人の深い處に一致があつた。只時代が違つた。
それ故語るところは同じくなかつた。無教會の隨
一はナザレのイエスであり給ひ、又パウロであつ
た。イエスは『我はわが父の名によりて來りしに
汝等われを受けず』と云ひ給ひ、パウロはキリス
トを信する信仰のみが我らを義とすると稱へて直
接神との靈交を語つた。何人も直接神との靈交を
語つて無教會となる。人の唱へた無教會主義を繰
返へすのは無教會ではない。教會である。

イスラエルの預言者

江原萬里

イスラエルの宗教の第二の特色

イスラエルの宗教中に包含する神に關する永遠的眞理の第一は、眞の神は常に天地創造の物力の神、萬物生育の生命の神のみでなく、正義と愛の神である、されば神の我等に與へ給ふ最大の賜物は善き潔き品性である。人は此の眞の神まことにのみ仕へなければならぬ。その仕ふるには義しき道德を以てするを要すと云ふ事である。之モーセの十誡の明示するところである。

イスラエルの民は此の神を全世界に知らせるため特に選ばれたのである。『汝らに我に對し祭司の國となり、聖き民となるべし』出埃及記一九・六である。されば神が正義と愛を以て全人類に對し給ふ態度は特に此の民族の歴史に顯著であつた。彼

等の名譽と屈辱、敬虔と背戾とのうちに擴大鏡を以て見るやうに鮮かにそれが見えるのである。凡そ何人と雖も神に選ばれ神を信じて神の民とせられた者はその至大の名譽を荷ふものであるが之れと共に又普通以上の重大なる責任を負ふものである。されば一度此の責任を果さず、『神の民』がその神を忘れ、他の神ならぬ神に仕へた時にはその刑罰も亦甚重きは當然である。

如何にイスラエルの民が神に對する契約に背き、肉慾的幸福の偶像に誘惑され、神を知る眞の智慧を失ひ、社會道德は頽廢し不義が横行したかは前に之を述べた。爰に於てか神はその刑罰として神の民たる名譽を剝奪し、異邦人をして聖地と神殿とを蹂躪せしめ、其の國を滅ぼし、その民を異境に流囚たらしめ給ふたのである。神に背ける人類の上に臨む神の刑罰は最も鮮かに彼等に臨んだ。神は實に正義を以て全人類の歴史を支配し給ふ

神である。されば凡ての事件は悉く正義なる神の攝理に由り、必らずその内に神の大なる御經綸が存し、そこに道德的意義がある。敵國の侵略も饑饉も社會の腐敗も皆神に背き神を忘れた罪の刑罰として來るのである。神を知らない者にはそれを悟ることが出來ない。然し神に最も近い人の眼には明にそれが看取されるのである。一羽の小雀すら神の御許なくば地に落ちることなしと主イエスは云ひ給ふた（マタイ傳一〇・二九）。まして人々の生涯、全世界の歴史に於て乎、世の不義は神が在し給ふ故に遂に滅びるのである。選民イスラエルの歴史は最も明瞭に此の事を示す。

嘗にそればかりではない。神が現實に正義をもて歴史を支配し給ひつゝある事をイスラエルの民に、そして又我等には、つきりと知らしめるため神は預じめ預言者を彼等に遣はして事の未だ生じない前に、神は之を罰し給ふ事を預言せしめ、彼等

の亡國は自然的原因のためならず、又國際的關係のためならず、實に彼等が神に背いた罪の刑罰として神が饑饉疫病をもて又外國を使役して彼等を滅ぼし給ふ事の證人たらしめ給ふた。神に近き預言者の眼にはイスラエルの歴史は悉く神の支配の下にある事が明白に見えた。されば『預言者は歴史の中から生じ、歴史に併行して進み、歴史を解釋する』（A B デロソン）。神は預言者を送つて歴史の眞實の意義を語らしめ、歴史は社會的物的生産力に由つて動くのではなく、又自然的環境の産物でもなく英雄の傳記でもなく、神の眞理である事を明示し給ふのである。

夫エホバはその隠れたる事を僕なる預言者に傳へずしては何事もなし給はざるなり（アモス三・七）
イスラエルの神エホバはかゝる神であり給ふ。彼は實際に歴史の主動者である。故に事前に人を遣して預言せしめ得る能力がある。偶像に此の預

言能力はない。さればエホバの預言者は偶像の預言者に挑んで云つた。

エホバ言ひ給はく……汝等（偶像）の確き證をも

ち來れ、これを持ち來りてわれらに後ならんことする事を示せ……我ら汝らが神なる事を知らん

……誰か初よりこれらの事をわれらに知らしめたりや；一人だになし（イザヤ四・一二）

イスラエルの神は歴史の神攝理の神である。正義を以て全人類を支配し給ふ事、且つ前以て預言者を遣してその後生せしめ給ふ事をその民に告げ知らしめ得る神である。私は前にイスラエルの宗教の他の宗教と異なる特色として神と民との關係は自然的關係でなく、双方の契約關係即ち誠實に義務を履行することによつて繼續せられる關係である事を説いた。此の神は又預言者を遣はして神は此の契約に忠實であり給ひ、之に従つて人類の歴史を攝理する神なる事を示し給ふた。預言者の

出現はイスラエルの宗教の第二の特色である。

預言者の性質

イスラエルの預言者は其の始め『神の人』と稱せられ、凡ての汚穢と虚偽とを燒き盡さずば已まざる聖にして又聖なる神に最も近い人とせられたのである。彼等は實に『申分なき誠實の人』であつた。然し乍ら其の誠實はどこから來たか、それは彼等が生れ乍らにして之を受け、又は自分の修養努力から來たか。否、彼等の純眞、誠實、神に對する絶對の服從、神の聖意の聽取判斷力、彼等の人格其の者之悉く彼等のうちから出たのでなく、神から直接に與へられたものであつた。神が彼等を神の預言者たらしめるやう創造し給ふたのである。そして彼等はその生涯の或る時期に當り此の事を明白に神から啓示されて、彼らの性格が一變したものである。

エホバの言我にのぞみて云ふ。われ汝を腹につくらざりし先に汝を知り、汝が胎を出でざりし先に汝を聖め、汝をたて、萬國の預言者となせり(エレミヤ一・四)。

二十歳そこくの青年エレミヤは神から直接此の言を聞いて彼の性格が大變動が生じた。彼は自分で自分を見、自分で自分の能力を知る以上の深い自己を發見したのである。神が彼を未だ生れ出ぬ先に、否母胎に其の片影だにもない先に、彼が如何なる人物となるかを預じめ知り、又神が彼を預言者として用ふべき事を預定し給ふたこの自覺である。誰かかやうな驚倒するに足る啓示を神から親しく受けて其の人格が根底から動かされないものがあらうか。彼等の見る眼、聞く耳、語る舌は常人の見得可からざる幻を見、聞き得ざる御聲を聞き、語り得ざる神の言を語るやうになる。これイスラエルの預言者であつた。

預言者がかく神の物とせられた目的は、神が彼等に特別の任務を授けてその民に遣はし給ふためであつた。『神の人』なる彼等は又『神の僕』であつた。其の任務は即ち神の言をその民全體に取次ぐことであつた。イスラエルの宗教は個々の人々が神に對する關係でなく、民全體が一體となつて神に仕へる國民教であつた。然かも神が此の團體に語り給ふには最も深い靈性を有する個人をしてその仲介者たらしめる必要があつた。此の任に選ばれたものが即ち預言者である。

エホバイひ給ひけるは：すべて我が汝を遣はすところにゆき、我が汝に命する凡ての言を語るべし。汝その面を畏るゝ勿れ、そは我汝と偕にありて汝を救ふべければなり(同一・七)。

預言者の語る言は神が直接彼等に啓示し給ふた御言である。彼等は時として己の意に反して之を語らしめられるのである。エレミヤは云つた。

エホバよ、汝われをすかしたまひてわれ其のすかしに從へり。汝われをこらへて我に勝ち給へり。……エホバの言日々我が身の恥辱となり、嘲弄となるなり、是をもて我かさねてエホバの事を宣べず、又その名をもて語らじといへり、然れどエホバのことは我心にありて火のわが骨の中に閉ぢこもりて燃ゆるが如くなれば忍耐しのぶぶにつかれて耐え難し(同二・七以下)。

かやうに彼等が己が意に反してまでも神に強いられて語らしめられる言が即ち預言である。それ故それは人の言ではない。預言者の意見ではない。神の御言であつた。而して之を語るべき神の民は之に耳を傾けず、之を嘲けり、預言者を迫害したのである。

何故であつたか。それは神の民させられたイスラエルは今や全く神に背いて神の敵となつたからである。それ故『神の人』が神から遣はされて神

の言を語ることも之を神の言としなかつた。又その言は彼等の耳に決して心地よいものではなかつたからである。現代の基督敎國に又我國に眞の預言者が神から遣はされなば人々は之と同様の態度に出るであらうことは想像に難くはない。預言者は云つた。

エホバまた我にいひ給ひけるは、汝この民のためために恩を祈める勿れ。彼ら斷食するとも我その呼ぶをきかず、燔祭と素祭を献けんぐるとも我これをうけず、却てわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅すべし。我いひけるは嗚呼主エホバよ、みよ(僞の)預言者たちはこの民にむかひ、汝ら劍を見ざるべし、饑饉は汝らに來らじ、われ此處に鞏固なる平安を汝らに與へんといへり。

エホバ我にいひ給ひけるは、預言者等は我名をもて詭いつはりを預言せり、われ之を遣さず、之に命せず、また之にいはす、彼等は虚誕いつはりの默示ろくしと卜筮

と虚しきこと、己の心の詐いつはりを汝らに預言せり。此の故にかの吾が遣さざるに我名をもて預言して、劍と饑饉は此地に來らじといへる預言者等につきてエホバかくいふ。この預言者等は劍と饑饉に滅ぼさるべし。また彼等の預言をうけし民は饑饉と劍によりてエルサレムの街に抛棄なげすてられん。之を葬る者なかるべし。彼等とその妻おそび其子その女みな然り、そは我彼らの惡を其の上に注げばなり(エレミヤ一四・二一以下)。

眞の預言者と偽の預言者

爰に神から遣はされて神の言を語る眞の預言者と『吾が遣はさざるに我名をもて預言』し神の言を語らないで自分の確信を語る偽の預言者の二つがある。此の兩者は共に誠實であつた。共に熱烈なる愛國者であつた。其の誠實其の純眞、其の愛國の熱情よりせば二者に區別がなく、否寧ろ一般

の人々は偽の預言者の方を神からの眞の預言者であると思つた程彼等の言は人々の心に訴へた。然し乍ら二者の眞偽は其の預言の結果で知られた。眞の預言者の預言は適中し、歴史上の事實として顯はれた。申命記は預言者の眞偽を鑑別する標準を規定して云つた。

汝あるひは心に謂ん、我ら如何にしてその(預言者)言のエホバの言たまふ者にあらざるを知らん。然らば若し預言者ありてエホバの名をもて語ることをなすに、その言就なげすまた効あらざる時は是エホバの語りたまふ言にあらずしてその預言者は縱肆たはしやを語るところなり、汝その預言者を畏るゝに及ばず(一八・二及二三)。

現代の預言者觀は預言者を以て人間中の最高位に在る誠實者とし、其の語つた神からの使命は至高の道德であり、人々をして罪を悔改めて神に歸へらしめやうとした道德上無二の教師であるとする

る。そして彼等が語つた來るべき亡國の預言を無視し又之を輕視する。之は大なる偏見である。これでは偽の預言者と區別することが出来ない。

勿論彼等は人間至高の道德を説き、又出來得べくば人々をして悔改めしやうとした。又彼等は眞に愛國者であつた。又眞に『申分なき誠實』の人であつた。彼等こそは『視よ、これ眞のイスラエル人なり、其の衷に虚偽なし』(ヨハネ傳一四七)と云はるべき人々であつた。純の純たる神の民、理想的イスラエル、その最高精神の代表者であつた、同胞の喜と恐、その願と望は悉く彼等の心に反映し、民の生命の潮は彼等の心に波動した。それ故彼等は同胞の墮落を知り得た。彼等は神から離れた罪を犯したイスラエルの民の良心であつて、身自ら同胞の罪のために心痛んだ。(人々が悔改めて神に歸へることを如何に切實に願つたか)。それ故彼等はよく同胞の罪を詰責し得たのである。自分

は安樂椅子に倚りかゝり冷然として支配階級の罪惡、社會の腐敗を見やり乍ら之を嘲罵する現代の社會批評家と彼等は全く其の性質を異にした。

然し乍らかくまで純眞誠實であり又愛國者であり、同胞の罪と惱みとを身自ら體驗し、罪を悔ひて神に歸へる必要を痛切に感じ、又神は必らず之を受容れ給ふと信するだけであるならば、彼等は彼等と正反對の位置に立つた所謂偽の預言者たちと何の異なるどころはない。眞の預言者は神の聖意を直接神から啓示されて之を民に告げる者であつた。曰く『汝この民のために恩を祈る勿れ、彼等斷食するとも我その呼ぶをきかず、燔祭と素祭を獻ぐとも我これを受けず、却つてわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅ぼすべし』と。

あゝ眞の愛國者たる彼等が同胞のために神に祈る事をさへ禁せられ、神からその滅亡の預言をなすことを命せられた、この苦痛はそもごんなもの

であつたであらうか。之を宣べた時國王と國民の迫害がどんなに甚だしかつたか。然かも彼等は絶對に忠實なる神の僕として之を宣べたのである。

彼等は至高の道德を説いた。悔改を勧めた。然し乍ら預言者として神から命せられたものはイスラエルの民の罪のための滅亡の預言であつた。

北方のイスラエル國にアモス、ホゼヤ等又南方のユダ國にミカ、イザヤ、エレミヤ等の預言者が輩出し各々其の境過と性格を異にし、その言辭は千差萬別であつたが、不思議にも彼等が皆神の預言者として神の命を受け背ける民の滅亡を預言したことに於て、その言ふところ百餘年の長きに亘つて少しも相違はなかつた。彼等は一様に己が國人の社會道德が墮落し國勢が衰へ、又近隣に強大國が勃興し來つたのは皆イスラエルの民が神に背いた罪を罰するための神の鞭である事を告げた。彼等の此の確信は驚くべきものであつて、一時隣

國の脅威失せ、國內は改革によつて平和繁榮を見、國勢興隆の徵ある時に於てすら少しも亡國の預言を翻かさなかつた。

彼等が亡國に先だつ百餘年前から此の事を預言し續けた事は實に驚嘆するに足る。彼等が此の確信に到達したのは決して現代の社會科學者や又達識ある政治家が國際事情や社會の諸現象を仔細に觀察し、一般の趨勢を洞察して得た結論ではなかつた。テコアの農夫アモスは田園のうちから神の聲を聞き、アナトテの少年は未だ二十歳に達するか達しないのに既に神の啓示を受けた。之は神が直接に啓示し給ふたのであつて人間の知識ではなかつた。それ故神に召された預言者は時と場所と境遇と性格とを異にして皆一様に己が國の滅亡を預言したのである。此の事は現代の宗教心理學上一大神祕である。

彼等に共通した信念は神の正義は國家以上であ

ると云ふ事である。人あつて神があるのではない。神の民が神を祀るが故に神が存在するのではない。神は正義をもて全人類を支配しつゝあり給ふ。故に神が特に己が民として選び給ふたイスラエルと雖も、若し神に背かつか何の假借するなく其の不義を罰するために、神の民ならぬ偶像の民を使役して之を滅ぼし、他國に流浪せしめ給ふ神である。否その民が神の民としての責任を果さざれば果さないだけその罰も亦嚴なる神である。さればイスラエルの民の歴史は之を經濟的史觀を以て説明することは出来ない。

神はかくして其の民の背反を罰してその民を棄て、異邦人をして神殿と聖地とを蹂躪せしめ、國を滅ぼし民を他國に流囚たらしめ、神の正義は全人類を支配することを示し給ふた。然し乍ら若しイスラエルの民が神に棄てられて滅びて仕舞つたならば、我等は神につき知るころ甚だ僅少であ

らねばならない。我等は之によつて正義が我等を支配することを知る。されど現世に於て義人が苦しむ惡人が榮ゆるのはどう云ふわけであらうか。又イスラエルの民の苦みは他の民族の未だ嘗つて經驗した事のない苦みであつたが、それは彼等が他の民族よりも深い罪を犯したためであらうか。然り、若し彼等の罪は緋の如く赤く、之を曹達をもて洗ふごも洗ひおごすこと出来ないものであるとして、天地と全人類を創造し給ふた神は一度罪に陥れる者を正義を以て罰するだけでその罪を赦し、滅亡の運命から救うて之を再び罪を犯すことなきに至らしめ給ふ神ではあり得ないか。否神は嚴肅なる正義の神であると同時に又深甚なる愛の神であり給ふことを知る。我等は此の事をイスラエルの民の歴史に於て學んだのである。それには亡國の際に顯はれた偉大なる、否、多分最大の預言者エレミヤの生涯を知らねばならない。

エ レ ミ ヤ 記 の 研 究

エ レ ミ ヤ の 生 涯 (上)

江 原 萬 里

エ レ ミ ヤ の 出 生 と そ の 時 代

エレミヤがユダに生れたのは紀元前六百五十年頃であつた。之を我國の歴史について云へば神武帝が『豊葦原の瑞穂の國はわが子孫の往きて世々君たるべき地なり』との神託を奉じて始めて大和に日本國を建設し給ふたと稱せられる年に後れること凡そ十年、爾來二千五百餘年を経て世界の一等國となつた大和民族が四圍尙薄暗い草叢のうち國を建てたのだと殆ど時を同じくしてエレミヤは呱呱の聲を擧げたのである。

此の時は既にイスラエルの民はその先祖アブラハムがエホバから『我は全能の神なり、汝我前に

行みて完全かれよ。我汝とわが契約を立つ、汝は衆多の國民の父となるべし……我わが契約を我と汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約とし、汝および汝の後の子孫の神となるべし、我汝と汝の後の子孫に此の汝が寄寓れる地即ちカナンカナンの全地を與へて永久の産業まぢものとなさん、而して我彼等の神となるべし』(創世記一七・二以下)の約束を聞いてから凡そ千八百年を経過して居た。

アブラハムの後裔ダビデ王が即位してイスラエルの勢威は四隣を壓したが、ダビデの子ソロモン王の時榮華は其の極に達し、彼の死後國は南北に二分し、エレミヤが生れる七十年前北方のイスラエル國はアッシリア帝國のために滅ぼされてイスラエルの十二の支族中十族はアッシリアに捕え移され、南方のユダ國が遺りの二支族を擁して僅かに神の民の餘喘を保つて居た。

エレミヤの生れ出る少し前さしにも諸民族を威

服したアッシリア大帝國の勢は漸く傾き初めたが、之を好機としてエジプト及びバレスチナの諸民族がアッシリアに背いて獨立を謀り、近く戦争が起るこの危惧が盛であつた。ユダの人々は伊勢の神風のやうな思ひかけなき神の御援によつて此の國難を免れるすべもないかご祈念しつゝあつた。それかあらぬか其の頃生れ出た子にエレミヤご名付けられた者が多かつた。エレミヤごは『神打出し給ふ』の意である。

アッシリア帝國は大王安シュール・バニバルの治下最も隆盛を極めたが、紀元前六百四十一年即ちエレミヤが十歳の頃バレスチナに侵入したのを最後として國は次第に衰へ、大王の死後はバビロンのナボボラサルが獨立し、又メデアが侵入し首都ニネベを圍むあり、内外多事、それがためユダは比較的平和を得た。最早アッシリアの脅威は去つたのである。

ユダは其の大凡百年前にヘゼキヤ王のごきアッシリアの大軍の侵略あり、國運は風前の燈火の如く危かつたが民は預言者イザヤに聽いて神に信頼し、遂に此の危難を免れた。エルサレムを圍んだアッシリア軍中に疫病が発生して一夜にして圍を撤して退いた(イザヤ三七)。此の事あつて以來民は神に信頼することの如何に大なる祝福であるかを知つたがそれと同時にその信頼は淺薄となつた。神は永久にエルサレムを護り、外敵を排け、國難を救ひ給ふごの形式的信頼となり、神を靈ご眞ごに於て拜する信仰は却つて減退した。エルサレムには神の宮がある。宮を祀る間は神は常に彼等の神であり給ふご思ふに至つた。

其の後マナセ王の五十年に亘る惡政あり、異教の禮拜儀式を輸入し、エホバの外に偶像を祀り、肉感的儀式を盛にして人々歡樂に耽けり、他方エホバの怒をなだめるために幼兒を犠牲として獻げ

るやうな殘虐な儀式を行つた。そして之に反對する預言者たちを追ひ之を迫害死に至らしめた。彼等はエホバの如何なる神たるかを忘れ去つたのである。預言者が民に告げて『エホバの汝に要めたまふことは唯正義を行ひ、憐憫を愛し、謙遜(ひた)りて汝の神と偕に歩む事ならずや』(ミカ六・八)と云つても民は之に聽かうとしなくなつた。

ユダの滅亡

マナセ死し其の子アモンが母后に助けられて位に即いて以來ユダ國に復興の曙光が出たが、王は黨争の犠牲となつて暗殺され、八歳のヨシアが即位した。彼は敬神の念深く公義を愛し貧者に對し憐憫あり、稀れに出る善王であつた。彼は銳意國の頹勢を挽回しやうとした。エレミヤが神の聖召を受け預言者となつたのは其の頃であつた。偶々紀元前六百二十一年、神殿に於て現今の舊約聖書

中に収録せられてゐる申命記の一部分を發見し、其の書に載せてある神の契約とユダの現状との著しい相違に驚き、此の書に基いてユダ全體に大改革を行つた。

申命記は國民的宗教制度を規定したものととして未だ嘗て之程美はしきものは世になかつた。朝野の人々が之を讀んで感激したのは無理からぬ事であつた。イスラエルの神は高く崇められ、イスラエルの民の名譽と義務とは深く感銘せしめられた。國民一致して唯一の神エホバを拜することにより外に對しては國の勢を強め、内には公平と憐憫を行ひ民の融和を謀つた。其の改革は我國での大化の革新又は明治の維新以上の大改革であつた。

然し乍ら善き王の熱心と善備の社會組織と宗教制度とを以てしても人心の奥底まで浸潤せる慣習の力を打破する事は容易の事ではない。まして人の心を一新し今まで忘れ去つた正義にして愛

なる眞の神を明に認め、之を拜し、之にのみ仕へること乎である。ユダは此の大改革に由つて神に對する罪其の物が除かれ、神との契約關係が義しきに復したと思ひ違へるやうになつて其の罪は益益深刻化したのである。

然かも王も祭司も預言者たちも民の指導者は皆之を悟らなかつた。彼等は外はアッシリアの勢衰へ内は大改革によつて次第に繁榮の徵あり、民皆神に立ち歸へりて此の恩恵を得たことを喜び、平和あらざるに平和平和と云つたのである。只獨り神から遣はされた眞の預言者エレミヤの眼には明にその不義が映じた、彼は其の前既に神は此の民の罪を罰するため北から禍を招きよせ此の民を滅ぼし給ふとの啓示を受け且つ之をその民に告げることを命せられたのであつた。

ヨシア王の大改革あつて後十三年、今までユダ國の脅威であつたアッシリア帝國はメヂヤ及びバ

ビロンのため次第に勢衰へ滅亡に瀕した。此の形勢を看取して南方エジプト王ネコは獅子の分前を獲やうとして北上し來つた。ユダ王ヨシアは自國の改革の結果を過信して眞實國家の獨立を謀るは此の時なりと思つてか、ネコ王が好まないの之を迎へて紀元前六百八年メギドンに戦ひ、敵の矢ダの國は亡國に向つて急轉直下したのである。

ヨシア戰死するや國民は其の次子エホヤアズを立たが三月にしてエジプト王ネコ之を廢してエジプトに捕へ移し、其の兄なるエホヤキムを立ててユダに王たらしめ、重科を之に課した。

エホヤキム王即位後二年（六百六年）バビロン王ナボボラツサルはアッシリアを滅ぼし、翌年其の子ネボカドレザルはエジプト軍をユウフラテスの上流カルケミンに迎へ打ち之を大敗せしめた。爾來世界の大勢は決し、世界歴史はバビロンを中

心として動くやうになつたのである。

北より禍來る、二十餘年前若きエレミヤが神から啓示された此の言は今や歴史上の事實として顯はれて來たのである。エレミヤの眼には内外の情勢一つとしてそれを示さないものはなかつた。然かも王も近臣も祭司も預言者たちも神の守護、神殿の神聖エルサレムの不可侵を信じて神から遣はされた眞の預言者の言に耳を傾けやうとしなかつた。エレミヤは神殿に立つて國民に告げて云つた。汝らはこゝはエホバの宮なりエホバの宮なりと云ふも、此の神殿すら今に北方イスラエル國の神殿シロと同じやうに廢墟にせられるであらうと。又彼は今まで預言した言が今や事實となつて顯はれたため之を一卷の卷物として民と牧伯と王との前に讀ましめた。然かも彼等は預言者に聽かず、王は卷物を引裂いて爐に投じ、エレミヤを捕えて殺さうとしたのである。王は冷酷我執の人であつた。

彼は一度バビロンに降つたが再び背いた。之がため王の死後百日を出でぬ間にバビロン王ネブカドレザルが侵入し來り、次の王エホヤキンと王后と王臣と國中の優良の民を捕えて悉く之をバビロンに移した。

ユダ國の運命は既に決定した。亡國は避けることを得ない。此の難局に際して次の王ゼデキヤは性質は善良であつたが優柔不斷、好んでエレミヤの言を聽きバビロンに屈服せよとの勸告を受け乍ら首鼠兩端、遂にエジプト黨に動かされ、エジプトの後援を空頼してバビロンから獨立しやうとし之に背いた。五百八十六年ネブカドレザル王再び入寇しエルサレムを圍み遂に之を陥れ王の面前にて王子は殺され、王は兩眼をくり抜かれ鐵鎖に縛られて數萬の民と共にバビロンに送られた。エルサレムは焼かれ神殿は潰がされ、國は遂に荒廢に委せられたのである。

エレミヤの敬虔

驚くべき事は此の亡國に關するエレミヤの先見であつた。彼は四十年前神に召されて預言者となつたその時からして亡國の今日あることを豫見し、亡國の避け難きを知つた。然かも彼は出來得べくば之を避けしめやうとし、最早四圍の情勢が到底之を避けることを得なくせしめた時ですら、勤めて之を後らせやうとし、又其の災禍を出來るだけ少からしめやうとして心を碎いた。彼は王と民とに勧めて神の鞭に服しバビロンに降ることを警告した。然かも彼等は之を以て彼を賣國奴とし、神に對する不信賴とし、其の迫害は亡國に近づくに従ひ益々熾烈となつた。

彼は髓の髓まで愛國者であつた。然かも神は彼を捕えて己が愛する國の滅亡を預言せしめ給ふたのである。彼は同胞が神の契約に背いた罪の故に

神は此の民を棄て給ひ或は劍或は饑饉疫病が來り、國は滅され民は異境に流囚となることを宣べなければならなかつた。預言者イザヤ以來の傳統的信念であるシオンの神聖不可侵、民の神殿信賴、預言者たちの愛國の熱誠も神の正義を如何ともすることは出來ない。彼は只獨り國民全體の信念に反して之を神から宣べさせられたのである。眞の愛國者たる彼は屢々民のため祈つた。然かも神は最早その民を棄てたればそのために執成しをする勿れと之を禁じ給ふた。國と民とを眞に愛する彼は此の苦痛に堪えずして神からその任務を免れ曠野に出で往かん事を切望した。然かも神はいやがる彼を捉へて無理に亡國の預言をなさしめ給ふたのである。

彼はかくまで國と同胞とを愛した。然かも同胞は彼が神に忠であればある程彼の言に聽かず彼を迫害した。彼は迫害されればされる程如何に民の

心が神に背いて居るかを知つて嘆じた。その罪に對する神の罰は當然であることを悟つた。そして彼自身最もそれに苦しんだのである。彼こそは眞のイスラエル人、然かも眞實同胞の罪のために自ら獨り悩む者であつた。

かく彼は同胞の罪の深さを知り之に對する神の刑罰の當然であることを感じ、神の命のまゝ之を宣べると同時に他方眞のイスラエルの民として己が愛する國と民のため何故神はかくまで其の罪を罰し給ふかを神に訴へた。彼の心は二分し、彼自身は神につける神の預言者エレミヤと民につける人間エレミヤとの二人の鬭争其の者となつた。彼は神に忠實であればある程同胞に棄てられ、神に背ける同胞を愛し之と一つとならうとすればする程その祈は神に聽かれず、己れ自身神から棄てられた如く感じた。彼は天地の間眞に孤獨、眞實の悲哀を味はつた。そして此の苦しみにより彼は

益々深く神の眞實を知り、神の刑罰たる亡國の苦痛を只一人で經驗しつゝ、彼は眞に神に歸り來たのである。

國は滅び民は異邦に奴隷となり、神の民イスラエルの光榮は地に墮ちた。民は偶像の民のうちに在り、故國は廢れ、神殿は破壊せられ、エホバを拜する一切の制度と儀式はなくなつた。イスラエルの宗教は悉く無に歸したのである。然るに視よ、從來の國民的、儀式的、制度的、且つ律法的であつた宗教こそ棄てられたれ、眞にエホバを拜する眞宗教は此の時只一人の人間エレミヤの心に殘存したのである。神こそその民との義しき關係は神殿になく、何等の制度儀式になく只眞に敬虔なるこの一人の人の心胸に燃え出でたのである。やがて後世イエス出でペテロ、ヨハネ、パウロ等によつて全世界の人々に傳へられたイスラエルの宗教の中に包藏せられた其の眞髓は此の亡國に際し只一本

の毛髪によつて支持せられ、只一人の血管を通して後世に傳はつたのである。然かもそれが此の一本の毛髪を経るごきイスマエルの宗教は國民的形式的宗教より個人的靈的それ故に世界的普遍的宗教へと偉大なる變化をなした（以下次號）。

あ、天よ此の事にあきれ

驚き且つ慄えあがれよ。

二つの惡事を我が民はなしぬ。

活ける水の泉なる

吾を彼らは棄て去りて、

己れ自ら水溜を掘りぬ。

そはひび破れて

水保ち得ぬ水溜なり。

エレミヤ書二二、一二、一三

基督教の中心

江 原 萬 里

現代の基督者の最も顯著なる謬見は神は容易に我等の罪を赦し給ふと考へることである。彼等は云ふ『悔改めよ』と。己が罪を認めて惡るかつたと思つたならば、そしてこれからは正しく歩もうと決心したならば、それで神は過去の罪一切を忘却し、之を赦し給ふと考へるのである。それ故に彼等は盛に悔改めよと云ふ。之れ神を輕することではないか。そして神を輕ろんする以上の罪が何處に在るか。

彼等の此の謬見は二つの更に根本的なる謬見から生ずるのである。第一は人は容易に自分の罪を認め得られ、又容易に之を悔改め得られると云ふ謬想である。この位淺薄なる人心の觀察はない。人は決して自分の力を以て自分が神に對する背反

の罪を認めることは出来ない。従つて之を悔改めて神に復歸することは不可能である。罪とは神に對する罪であることを弔記すべきである。然るに彼等の考へる罪とは自分に對する罪である。即ち自分に都合の悪いことが罪である。彼等が義人たり得ず、仁愛の人たり得ない事を悔ゆるのはそれが自分に都合が悪いからである。彼等が罪を認めることは自分が自分の有つ道徳的標準に照して自分は義しくないと感ずることであり、悔改とは自分の標準にまでもつと義しくならうと願ふことに過ぎない。こんな悔改ならば何人にも何時でも出来る。少し自分が失策をやり不評判を蒙つた時には誰でも悔改め得る。然しこれで神に對する罪は斷じて赦されない。

彼等が罪の赦しを輕視する第二の原因は神はどの位我等の罪を激怒し給ふかを知らないことに在る。現代人に眞の正義觀が缺乏して居るのはかゝ

る神を知らないからである。彼等はどんなに自分勝手を行ひ、或時は熱心に神に仕へたかと思ふとすぐ尻食へ觀音をきめ込み、又すぐ罪を悔改めて神に歸へり、又やめる。かやうに向背常ならずとも神は彼等が歸へり來さへすれば何時でも歡迎し給ふと思ふのである。神はかゝる者に對して激怒し給ふ。その事は彼等己について考へてもすぐわかる。己に對して損害を與へ惡口を云ふものがあつたとせよ、彼等は終生その者を憎み、表面はさも融和した如く見せてもその惡感情は終生心中に潜んで居て、折あらば外に燃え出るではないか。義ならざる我等然り、況や正義の神が罪を憎み給はないことがあらうか。

人が神に對して犯した背反の罪は其の人の性格となり、其の人の自由を以て之から脱却することは出来ない。これが罪の罰である。この罪から赦される事は神に於ても至上の難事業である。神が

天地を創造し之を維持し給ふことはこれに比して眞に容易なる業である。正義の神が正義に基いて罪を赦す位の困難は何處にもない。何となればその事自體が一つの大きな矛盾であるからである。正義が要求するところは罪を罰することであつて罪を免がれしめることではない。正義が正義に基いて罪を赦すとは罪が罪によつて正義を行ふと同様に不可能である。

然かも神は神の大宇宙に於て、然り、カルバリ山上に於て此の最難事業を成就し給ふたのである。我等はこれがために神を讚美して已まない。ここに全世界の新生命の源がある。之を通じて始めて神の神たり給ふことが知られる。我等その前にひれ伏し身を投げ出し、只彼の至高至善の御意に絶對に委ねるのみである。基督教の中心はこゝに在る。誰なれば此の罪の赦を輕ろく見、こゝに停滯することは信者の生命の沈滞であること考へるもの

は。これ神は罪を容易く赦し給ふと思ふ現代人の誤謬であつて、此の罪の赦しのうちに神の最大の犠牲の要つた事を知らない者である。罪の赦を確實に得た者は其の外に別に義を慕ふの要はない。罪の赦即神の義である。こゝに神の全部がある。神が御子を賜うて我等の罪全部を贖罪あがなひ給ふたならば此の罪の赦を確受すること以外に何物があらう。一切の善きものは悉く此の中に在る。

あゝ現代の基督者よ、全心を注いでキリストの十字架を仰視せよ。そこに苦しみ給ひし彼の一言一行、その血潮の一滴一滴を己が血とせよ。その中に在る神の恩恵のどの位高く深いかを知れ。そこに今まで君達が何處に往きて求めても得なかつた新生命の泉が滾々として湧出するのを發見するであらう。これ以外他に義を慕ふならば君達は遂に自己満足の律法的パリサイ主義者となるか、『神の國運動』のサドカイ主義者に陥るであらう。

順禮父祖の信仰と吾人の使命

山 榊 儀 市

○世界的不景氣は、歐洲大戰の結果であつて、これを醫す唯一の方法は、たゞ軍備の撤廢のみである。不信仰の爲め、各國が苦み呻きながら如何にもすることが出来ないのに、フーバー大統領が、軍備の縮少を目的として、戦債延期を提議したのは、流石に順禮父祖の信仰が、まだ生きて働いて居ることを痛感する。

○福音の種は、困難なしに傳播されない。吾人の信仰は、三つの難航海によりて傳へられた。第一は、使徒行傳二十七章バウロ難船の航海によつて、福音がローマに入つた。第二は順禮父祖の大西洋横斷で、アメリカに植えられた。第三は、内村先生が、其福音を齎らして歸朝の際、横濱到着が暴風雨の爲めに、三日も後れた爲め、同郷で且アマ

ストの先輩である新島先生が、横濱の宿で待てなくなつて、京都に歸られたので、遂に同志社へ引き入れられることを免れた。

○十七世紀の始め、ロンドンの北方百五十哩の小村スクルービーで、郵便局長を中心とした清教徒の一團があつた。彼等は信仰の自由を得やうとして脱走を企て、數回官憲に捕へられて失敗したが遂に和蘭へ脱出した。其の頃アムステルダムには、分離派の人々が澤山移住して居て、此人々は恐ろしく理窟屋で、議論ばかりして居るのに堪えられなかつた爲め、彼等は大學町のライデンに移住することゝした。彼等の内ブルースターのみはケンブリッジを出たが其他は紡織工、大工左官ペンキ屋等の普通の勞働者であつた。

○彼等を本國に於て又ライデン移住中指導した者はジョン・ロビンソンであつた、彼は英國が産出した最も偉大なる者の一人であつて、非常に親切

であり且つ智能の優れた厳格なカルビニストであつた。彼の教會觀は信者各自に内住し給ふ聖靈によりて光に満たされたクリスチャンの集がそれであるとし、クリスチャンは各自人によらず、各々獨立して神を拜し、力を受け、而して相互に結びて光を輝やかすべきもの、是が教會であること云ふ確乎たる意見を有つて居た。彼等は此偉大なる教師に教へられて、直接活ける基督によりて、世界歴史に大きな足跡を残したのである。彼は互に相親しみ和蘭に十一年間存住したが、曾て一度も官憲に訴訟を持つて行かなかつた。又和蘭人とも親みて尊敬せられた。

○此禮祖父がアメリカに移住する前年アムステルダムの一團、百八十人が渡航したが、非常な難航海であつて船長も其首領も航海中死亡し、僅かに三十人がアメリカに到着したことを聞いた。彼等の渡航の決心には死か自由かの覺悟が必要で

あつた。かくて一六二〇年の夏、ヴァジニヤとの協議が纏つて、サザンブトンからメーフラワー及スビードウエルの二隻の船に乗つて移住することになつた。

○教師なるロビンソンは、一行に後れて渡航することとなり、彼はエズラ八章廿一節のアハワ河の邊にて斷食をして、正しき道を示されんことを求めたこの聖句によつて送別の説教をなし、また英國出帆の際にも手紙を以て彼等の信仰を勵ました。ロビンソンは其後數年で死したため、遂に新英洲に渡航することが出来なかつたが彼の教は其の弟子に由つて果を結んだ。

○彼等は七月二十二日出帆したが間もなくスビードウエル號は洩水が激しくて、遂に航海を思ひ止まり、二十名許りを残してメーフラワー一隻に乗り、遂に九月六日に劃世紀的航海に船出した。此の船は僅か百八十噸の小帆船であつた。隅田河口

に繋いである様なこの小さな船に百數十人も乗つたのであるから、其混雑と窮屈とは想像以上であつて、殊に飲料水には一番困つたであらうと考へられる。その上中途で大暴風に逢ひ、大難航中、遂に船體中央の梁が外れて仕舞つた。其軋る音が、船首に碎ける波の音と共に非常な響を立て、一同は生きた心地なく引返そうと相談した。勇敢な船長は泰然として船體は大丈夫であることを保証し、梁を元の位置に置きさへすれば安全であること、自信を以て前進を主張した。幸に船客中大纒釘を持つて居た人があつて、之を用ひて梁を締めつけて航海を續けることが出来た。

○コロンブスのアメリカ發見の時、幅將ビンソンが、稍もすれば後に返さんとするコロンブスを勸まして、大發見をなした如く、此メーフラワー號の船長トーマス・ジョーン氏の勇敢は推賞すべきである。只僚船スピードムエル號は、折角崇高な

る業に就かんとして、其航海準備と勇氣の缺乏の爲め、落伍したのは残念であつた。

○所謂優秀船と稱せらるゝ大汽船でも、三等船客は随分苦しいのもであるが、木の葉の如き小帆船で、連日大西洋の冬の怒濤に翻弄された苦痛を考へると、よくも無事に着いたものと、今更其大冒険に驚くのである。今井館より狭いところに百數十名が入つて時化の爲め、艀口は堅く閉されて空氣の流通はなく、打ち寄せる怒濤のしぶきで衣類を乾かす暇なく、十一月九日ケーブコッドにつく迄、九十餘日ジメ／＼した不愉快極まる生活であつたが、たゞ一人從者が航海中に死したのみで他は健全に到着した。船が小さいので、大浪が斷へず甲板を洗ふ爲め、ホーランドと云ふ者が波にさらはれて、舷外に流されたが幸にも流された綱の端につかまつて水夫に引揚げられた。かくして南方バーヂニヤ州に向つたのが暴風の爲め、新英洲

に吹き寄せられ、時既に冬であつて、目的地に南下することが不可能であつた。

○彼等はこゝに上陸して探險して遂にそこを殖民地と定めた。探險から歸つて見れば後長く知事をつとめたブラッドフォードの最愛の妻は海に落ちて溺死したのを知つた。兎に角小屋を建て、住んだが寒氣は烈しく、食料は缺乏した。彼等は堅忍不拔の信仰を以て困難と戦つたけれ共、裏の山に段々墓標が殖へて、翌年三月メーフラワー歸航の折には、百二人の同志が其の半數の五十一人に減じた、しかし彼等のうち一人も舊きエジプトなる英國に歸らうと云ふ者はなかつた。

○何故他の澤山移住した清教徒の團體のうちで、此人々のみがアメリカの眞の父祖となつたか。彼等の殖民は、天への殖民であつて、金を求める爲めではなく、神を拜する爲めであつたからである。彼等は國教會に屬せず、監督も信仰箇條もなく、

只聖靈の神に導かれた。彼等には學者は尠なく、大部分は中産階級か戶外勞働者であつた。神學說を闘はし、また論理の遊戲に耽らず、實際的勞働を以て、神を拜し互に相愛した。論争による嫉妬憎惡にまさりて聖靈の火を消すものはない。

○彼等は彼等を逐つた英王に忠誠を盟ひ、且如何なる困難に遭ふも咄かず感謝した。指導者の手達の爲め冬に到着して半數の死者を出しても恨まず、たと恩恵を感謝した。或る時は食物がなくなつて、海濱から蛤を堀て來て、之をスープとして食つた。聖書に詳しいブルースターが卓長となつて、申命記卅三章十九節に『彼ら砂の中に藏れたる物を得て食はん』とあるのは實に此賜物であるに感謝し、又早魘の爲め農作物が枯死せんとしたときに、エリヤの如く大雨を祈つて雨を得た、彼等は感謝と祈禱の人であつた。

○我等内村先生の弟子はロビンソンに就いて大

西洋を渡つた此順禮父祖に學ぶ必要がある。彼等が師なるロビンソンに離れても其教を奉じて困難に勝つて信仰を證明した如く、我等も亦先生の逝去後身を以て實行して其眞實なることを證明する責任がある。殊に現今は黄金の波濤高く、惡思想の暴風は吹き荒んで居る其太洋に船出したのであるから、メーフラワー號に勝りて難航海である。

○清教徒は、大なる結果を意識しないで、たゞ最善を盡くして働いた。我等は此活きた實例を學んで、善き信仰の戦を戦はなくてはならない。理想が高ければ高い程、惡魔の反對は猛烈である。しかし乍ら『汝らが遭ひし試煉は人の常ならぬはなし。神は眞實なれば、汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試煉に遭はせ給はず、汝らが試煉を耐へ忍ぶことを得んために之と共に遁るべき道を備へ給はん』(哥前十・十三)。我等は安心して、主の義勇軍に投すべきである。

軌近考古學と舊約聖書 (三)

アブラハムの時代

小 栗 襄 三

一、ウル市の外観

信仰の始祖アブラハムの故郷カルデアのウル (Ur of Chaldee: Tell al-Mugayyar 『瀝青の丘』の意なり) は波斯灣口とバクダッドの中間に位し、現在のユーフラテス河岸より西方約十哩、(當時は河畔にあり、運河は開鑿され、運輸は専ら船舶によりしものゝ如し、昨冬發掘中に確證を得たり、猶兩大河は毎年少しづつ移動し又九十呎宛波斯灣口に向つて進出しつゝあり)。又鐵路を距る事約一・五哩の地點にあり、其處に土壞の堆積せる遺跡がウルである。曾ては燦爛たる文化を誇りしウルも今は荒寥たる荒地に成果てゝある。

第十九世紀に勃興したメソポタミヤ考古學は好

古の徒を遺跡に走らせ、舊約史の背景を漁らしめた。其内にロータス氏 (William Kennet Loftus) が先づウルを試踏し、次に一八五四年バスラ在任の英國副領事テーラー氏 (J. E. Taylor) の試掘は當遺跡の往昔のウルなるを確認し、ヂグラツト塔 (Ziggurat: 『天の丘、又は神の山』の意なり) より坭土製角礫形奉納碑文を獲し外、當時の風習を知るに足る土器、家具類を初め、商業、法律文書等社會状態を知る史料を獲てウルの概略を知つたのである。其後ローリントン卿の踏査ありたるも遺跡はそのまゝ、歐洲大戦後迄放置され、一九一八、九年に大英博物館のトムソン、及びホルの兩氏 (R. C. Thompson, H. R. Hall) に由り再發掘に着手し、現在はウーレー氏により此處九年間繼續されてゐるのである。

先づアブラハム時代即ちウル第三王朝當時の市街の外観をみるならば、全市はユーフラテス河よ

り引込みし運河に圍まれ北隅に港を作り、又河に直接、接續する港は西側中央部に作らる。全市を繞る運河に外壁は全長約三軒に達し、又北港より西港に達する大運河は市内を從貫し、波斯、印度より又上流地方よりの船舶は、直接市内に碇泊し得る様になつてゐる。城市の東側には住宅及び小寺院散在し城内北西部の中央には大ヂグラツト塔中空に聳えて四方を睥睨し、塔上にはウルの保護神ナナル月神殿 (Nannar) あり三箇の塔上に至る大階段は前面中央より又左右より集り、塔下のナナル寺院庭は廻廊に圍まれて建築の美を誇りながらエヌンマク寺院 (En-Nun, Makh) に隣接す。少しく隔りて第三王朝の樹立者ウル・ナムー宮殿 (Ur-Nammu) 碑文には Ur-Engar とあるも同人なり) あり。其右側上にニンガル寺院 (Nin-Gal) 或は Gish-pal-ka と云ふ) あり主として僧侶の住宅なりし如し。此の僧侶等は朝夕白衣を纏ふてヂク

ラット塔上の月神に禮拜を捧ぐる爲めに眞直ぐな階段を上下する容姿はヤコブが石を枕に天使の梯子を昇降する夢を如實に展開せし觀があらう。

都市の設備としては下水、水道ありしものゝ如く多數土管の出土を見たり。普通住宅は一階又は二階建にて各家に中庭あり敷石にて覆はれ人口の近くに土薨あり、現在アラビヤ人間の住宅家屋の様式に略ぼ類似せるものゝ如し。

二、ウルの社會

さてウル第三王朝時代の社會状態はさうであつたらうか、此れはアブラハムの信仰を歴史的背景の上に明瞭にし、彼の信仰と彼の捨去りし當時の社會とを對比する時に多くの研究材料を供給するものである。

先づ當時の律法組織を一瞥する事とする。ウル第一王朝の没落後スメル國內に起きし内亂は王國の統整を缺き、各部落對立状態を呈せしもウトウ

ケガル(Utu-khegal)によるスメル復興運動は功を奏し統一がつくと同時に民法は改善され又發達し自由民の民權が保證せらるゝに至つた。して各部落の習慣法が統され、ヨリ普遍性を持つ法律となつて顯れたのがウラカギナ法(Urakagina)としてアブラハム時代以前に存在し、第三王朝フドウンギ(Dungi)王律に至つては有名なるカムラビ法典(Bab, Kimta-rapastu [m]: Amraphel, about 2000 B. C.; 創世記十四・一參照、一九〇二年佛蘭西發掘隊により波斯スサにて發掘され現在ルーブル博物館に所藏、モーセ律と類似點多き爲め高等批評に波紋を投げしもの、參考 Délegation en Perse [Tome IV, Paris])の骨子と成つた法律文書に迄なつたのである。猶スメル法典はイシン王朝(Isin)にニサバ、ハニ法典(Nisaba, Hani)として知らる。ニブーア、エレットクより多數出土す。(cf. E. Chiera: Legal and Administration Documents from Nippur, chiefly

from The Dynasties of Isiu and Larsa, No. 22) 此等は市民の實際生活に關する賣買、貸借、定款、遺賜、相續、縁組、離婚、賠償等が主要部分である。財産に就ては科料、沒收等にて罰し、個人の加害、不正行爲に就ては、『目にて目を、齒にて齒を』の罰則が規定されてゐるのである。

裁判は二種に分たれ、第一種は自由市民に關し、第二種は僧侶階級に關するものである。裁判は寺院庭にて行はるゝを常とし主として僧侶此れにあたるも、王命による正規裁判官あり又は町司、州司 (Patesi 或は Ishaku といふ) も裁判權あり。起訴者が上告をなす場合には先づマシキム (Mashikim) と呼ぶ檢事職の如きものに告訴する。マシキムは此れを裁判官に斡旋する勞を取る。

さてアブラハムのサラとハガルとの結婚問題をスメル法は如何なる解釋を下すであらうか、此れは我等に興味ある問題である。

柏 木 通 信 (第九信)

齋 藤 宗 次 郎

◎角筈の今昔 角筈の名稱は、恩師の壯年時代を知り少くとも直接間接に其恩に浴し其教に預りし人々の、到底忘るゝことの出来ない懐かしき地名である。明治三十二年恩師三十九歳の九月、牛込區矢來町より此地に轉居せられた。淀橋村に屬する一小區域である。我等の所謂角筈と呼び爲す所の丘上に建てられし一棟の平屋は、渠の九年間の戰鬥に不落の任を果せし名譽の城壘であつた。丘は南方に連る叢林を褥とし、夙夜間斷なく市民に清水を供する淀橋淨水場を枕とせる平和閑靜の地點であつた。新宿を貫く青梅街道の一端から南に入ること一町、十數級の段を上つて恩師邸の衝門の前に立つ者は、誰人も先づ清爽の氣に裹まるゝを覺えたものである。大久保、柏木、中野方面の田園菜園、十二社の森、村裡の小徑を護る雜木林なき周圍の小景を加ふれば、散策の範圍も亦潤澤なりといふことは出来る。一たび名古屋より上京して以來、久しく市巷の間を所々展轉し、我國政界學界財界に漲る汚濁卑陋の實相を目撃聞知して愛國義憤の烈火を胸に湛えし渠をして、靜かに預言、警

醒、福祉の言を國民の心頭に發せしめんが爲に備へられしは此郊外の一要塞であらう。渠は此處に於て第四十二號以下の東京獨立雜誌を編輯し發行された。邸に隣れる女子獨立學校々長として、自給獨立の精神を具へたる平民的女子の養成に盡瘁された。萬朝報紙上に警世の文を掲げられた。三たび夏期講談會を開かれた。獨立誌記者團の離畔に苦しめられた。理想團を起して社會改良に奔走せられた。聖書之研究發刊の大命に浴した。七時會を始めて日本國の爲めに同志の祈禱を促された。慈母を墓に送られた。愛弟子の逆行を眺めて心臓を震はした。近火に見舞はれ、盜賊に襲はれた。北海道、北越、信州、静岡等に傳道された。日露戰爭に非戰の眞理を叫んで世の攻撃に遭はれた。三句に亘る熱病に悩まされた。親友バー氏ベル氏等遙かに祈を交換せられた。斯くて靈肉の一切を捧げて基督の爲め國の爲めに仕へし間に、約十年の歲月は流れた。然るに視よ。附近の街路に土工の手加はりて往來は年毎に雜音を高め、後庭につゞく丘上の樹は倒され、衛生會館は取拂はれて煙草專賣局の工場は設けられ煤煙を中空高く飛散する大煙突を見るに至つた。多くの露店は張られた。青物市場は程近き所に開始された。商人の掛け聲と、車力の軋る音は地を縫

ひ空を際かして來る。物慾の爲の猛進は停止する所を知らない。神は其選びし使者を此喧噪黒煙の裡に置くに堪へず、遂に明治四十年十月、渠の爲に夙に備へられし柏木の里に導き給ふた。時に渠年齒將に四十七。而して思出多き角筈の地は、日々日本第一の多數の乗降客を吞吐する新宿驛と其四周の發展に連れて絶間なく俗威に脅かされ、恩師時代の名残としては、僅かに十七本の樅樹根強く丘を繞りて立ち、年を追ふて恵みの年輪を増しつゝ、梢を揃へて互に今昔を物語り、綠葉繁茂の間に預言者の尊き祈を永く停めんと努むる様を觀れば、曾て屢々靜かなる其木影に佇んで七時會を守りし予に取りては極めて深き感慨の種である。樹齡長かれよ。

◎恩師夫人の渡北 閑散に見えて實は心勞多き一年餘を送られし恩師夫人には、内外事の整理も略々一段落を告げ恩師遺業の上に光の輝くを認めて心に安きを得たれば、此夏は札幌なる令息博士の樂しきホームに過さるゝに決し、七月八日午後渡北の旅路に就かれた。着札幌後日々健全にて令孫等を愛撫し、櫻桃草莓の美味を賞し北海道氣分を十分に味はれ居るとのことである。秋風都門を音づるゝ頃、新たなる力と望に盈されて柏木の邸に歸らるゝ事であらう。

◎日曜日の集會

七月十二日、鈴木敏元氏司會

清教徒の信仰と我等の使命 山根 儀市

別欄所載の如く三回の難航路を経て我等に傳はつた十字架の福音を我等は如何に之を保ち如何に之を傳ふべきかに就き、焰を吐くが如き壯烈敬虔の所信を語つた。

次に其十九日朝、寶田一藏氏司會

二種 の 愛 藤本武平二

神と基督と人との愛の關係を明かにし、それより本能愛と神の愛との區別を詳説し、有馬典獄の愛の活動を例に擧げ、最後に我等は皆聖なる神の愛を信じて直ちに父の御許に歸るべきを勧められた。

◎洗足會の起源 洗足の精神は十字架の純福音を賜はり、信條宗派儀式を超越して單一に此信仰に日を送る兄弟等の間に、夙に當然起るべくして長く其機を得ざりしものが、大正十二年十二月十七日に至りて自然に成立するに至つた。其第一回を牛込神樂坂なる藤本醫院に開いた。十名の同志心扉を開放して主を崇め互に愛し祈禱感話夕食を共にした。何等規約の制定もなく、管恩師より

一、信仰本位であつて慈善本位に流れざる事

二、各自が會の責任を負ひ、他より助けられんとせず、

却つて相互を助くるを第一とする事

の注意があつて後、約翰傳十三章五節以下の精神に基いて『洗足會』と名けられたのであつた。爾來常に恩寵によつて保たれ、連綿今日に至つたのである。向後の成り行きに就て亦全く主に一任し奉るのである。

◎小坂眞理子の死 武藏野學園の教師たる教友小坂八郎氏の長女眞理子さんは七月八日夕、三年未滿の身を以て、神の滿ち足れる恩寵と彼女の負ひ來りし天職成就の勝利と兩親の愛惜の涙との一切を胸に納めて父の御許へと歸り去つた。小にして大なる事實とは此事である。神の命じ給ふ彼女の死は、父君の同僚吹本氏の令息求君の死と共に、其遺族を始め、學園の上に著しき精神的革新を起すこと、なるであらう。我等知友百餘名遺骸を圍み、禮と愛とを盡して嚴かに此等二つの靈を讚美の里に送つた。

◎輕井澤夏期講習會 塚本虎二氏を講師とする一週間の會合は、高原の夏草に坐し緑の山に對して、使徒ヨハネの獨得たる基督觀の精髓とダンテの奧妙なる教訓とを學んだ。百餘名の會員は兄弟の親交を温めて山を下つたとのことである。

◎小國傳道 イエスは其僕政池、鈴木兩氏を山形縣小國の郷に導かれた。傳道と稱すべきか否かは知らないが、計畫も收穫も悉く主の御手に委ねまつり、二人は只絶對の信賴に立つて村より村へと一步々々を進めつゝ、愛と祈と神の言葉とを靜かに農民の間に頒つのみである。冀くは神の靈此寒村を豊かに祝し給はんことを。

◎中央聖書研究會 畔上賢造氏は從來の上落合聖書研究會を東京驛前丸ビル八階に移して別名を附したるは此會である。今より後我が東京市民は誠實を以て天資の聲を聴き入るゝならば、彼等の蒙る幸福は道路の改修生活の安定如き比ではない。一事の出現に際し時と處と人物と方法とが人々の耳に達するや、是非の輕卒なる批評を下すを常とすれど、苟もキリストの擁護の下に、祈と信仰と愛とを以てする基督者の活動には空楚なる人意の言動を歇め、十分なる尊敬と同情とを拂ひつゝ、聖意の成らんを斷り求むべきである。此會は如何なる形態の結果を齎すまでも大局より見て其最善の恩恵たるは疑ふの餘地は無きやまのむ就ては曾て屢々恩師の筆によつて世に公にせられたれば今

◎地方雜信 信州一圓を報ぜんとして我筆縮む。恩師の

深く信州を愛されしは、其四境に聳立する幾多の秀嶺、溪谷の精を放射する幾筋の清流との故ではない。世界歴史

の明示によつて、瑞西の職責とニューハムプシヤの事績に高き天意を読みし結果、日本の將來に對する信州の天職と既に選ばれて自由と獨立とを熱愛する硬骨男子純朴婦人の現存するに因るものである。明治三十年以後幾回此地に入つて福音を傳へられたか知れない。日本に於て其行を迎へし度の多きは蓋し隨一であらう。一たび播かれし種子は時に應じて必ず發芽成長を遂げる。佞人が政權を弄する時代狂夫が赤き拳を振ふ時代の如きは時の裁斷に屠られ落莫の過去に消え去るまでは、忍んで蓄積涵養の時を守るであらう。今若し千曲、犀、木曾の流域にあつて、天の神己が腕に堅く立ちつゝ、二十年三十年の單純なる信仰生活を續け、生命の源泉を徐ろに後昆に傳ふるの任に當る同志を擧げよとならば、北信に於て小諸の小山、南條の長谷川、更級の寺島、南信に於て諏訪の久保田、樋口、松本の手塚、穂高の井口、筑摩の丸山、伊那の栗澤、木曾の松島諸氏を指さすであらう。血と涙の歴史を有する井口氏の研成義塾に就ては曾て屢々恩師の筆によつて世に公にせられたれば今は言はない、只主の愛により健全に立つて居ることを附言し置く。

編輯餘録 主筆

○時極暑の際なれば漫談を書く。二十餘年前私は第一高等學校の英法を志願した。それは獨法に入り度く思つたがその方が難かしかろうと獨りぎめに思つたからであつた。後から英法の方が入學志願者が多いと聞いて、最初からしてこんな間違をしたがきく、

ことを得た。丁度其の夏のこと私の義兄が澁澤子爵に從うて北海道旅行をした時其の一行に私と同様英法に入學することゝなつた子爵の令息が居た。そこで秋には私も上京して學校で會ふでしやうから御交際下さいと云ふやうな挨拶をしたさうである。

○九月になつて學校が始まる。私は出席簿の點呼がある度に丁度私のすぐ後ではいと答へる聲を聞いた。そして私の背後の机に田舎漢の私の目にはどこか華族面をした白面の青年を見出した。てつきり是だと思つて話しかけた處それは故神田乃武男の令息高木八尺君であつて私の探して居た人は其の今一つ後の机に居た事がわかつた。かやうのわけで私は最初に友たり得べかりし澁澤君をおいて圖らずも高木君と親友になつて仕舞つた。

○私が内村先生を知るやうになつたのは高木君の紹介に由つた。當時先生は門戶嚴鎖主義を採られて居たので若し高木君が私をつれて行つてくれなかつたらなほ、

は大學卒業まで、五年間に講義を聞いたのは此の五年間だけであつて其の後十指を屈する程しかない。然し先生と親しくなつたのは私が先生の許を離れて大阪に行つてからであつた。

○澁澤君とは其の後寮で二年間同室に起居したが日曜日は必ず柏木に通ふので王子に彼を訪れたのは一度きり、さうして親しくなり得ず、子爵(當時男爵)にはお目にかゝる機会もなくしてすんだ。私は王子に行くべくして誤つて柏木に行つて仕舞つたのである。

○數年前藤本重太郎氏がかなり重態であつた内村先生の令孫の病氣を、其の獨特のみみ療治で治療されたため、先生は私にその治療を受けることを勧められ、私は同氏の一方ならぬ厚意により田園調布の同氏宅に五十日程寄寓して治療を受けた。そこで散歩の折柄廣莊なる澁澤邸を見出して端なくも、若し私が王

子に行つて居たならば或はその當時寮の同室の某君に代つて私が田園都市會社の支配人となり、又其の某君の代りに此の頃は私が刑事事件で臭い飯を食つて居たかも知れなかつたと思つた。丁度私を連れて来て下さつた内村先生に之を語り、私は王子道を誤つて柏木道に出た事について打ち興じた。

○私が柏木に熱心に通つて行くにつれ先生を私に紹介してくれた高木君に對する感謝は深まつた。私の大學時代は高木君とそれから寮で私と二年間同室であつた河合榮治郎君といつとも一緒に集り、其の親しさは多くの人々の眼についた。そして此の三人は不思議にも相前後して大學に歸つて來た。私と高木君とはどこか似たところがあると思つて一高時代から度々間違へられ十年後、私が山上御殿の食堂にゆくさ給仕はよく私の席上に高木君の名札をおいて行つた。

○一高以來二十餘年は過ぎた。昨夏河合教授は多年の心血を灑いでトマス・ヒル・グリンの思想體系二巻を著し、此の夏は高木教授に克苦勵精の結晶である米國政治史序説の著があつた。嘗て學生の時互に語り合つた私達の青春の理想はこうして具體化されつゝある。今彼等の著書を手にして回舊の念に堪えない。

東大教授 高木八尺著

米國政治史序説

現存世界各國中最も光榮ある建國史を有するものは北米合衆國である。私は思ふ。ヒュリタンの眞摯熱烈なる信仰が今まで何の傳統もなく全く無拘束なる北米の廣闊なる森林に思ふがまゝに根を下ろし發展することを待たのがそれである。こゝに二つの自由が一致した。一つは信仰に由る天的自由即ち良心の自由であつて罪からの解放、靈魂の眞の自由がそれである。第二は地的自由であつて各人皆他から強制せられることなく各自相議して定めた規律に各自が服従するの自由であつた。清教徒の天的自由が此の北米の原始的林野の自由境に育成せられて北米合衆國が建設されたのである。其の憲法は自然法を基礎とする。此の事を明瞭に説示することが本書の特色と思はれる。暗示に富み我等を教ゆるところ甚だ多い。私は此の書を讀みつゝ、カルヴェイン主義が新英洲神學としてジョナサン・エドワーズで其の最高頂に達し次第にヒュームの懷疑論を誘致したやうに、聖書を基礎とした自然法的

米國が今日の無神論的物質主義に墮落しつつある經過を思つた。本誌讀者に一讀を勧め度い。(並製三圓五〇錢有斐閣版)。

東大教授 河合榮治郎著

トマス・ヒル・グリーン

の思想體系

十九世紀末葉英國の思想界を風靡した倫理學者哲學者にして又社會思想家たりしグリーンンの多方面なる思想の紹介である。自我實現説の名を以て我國にも有名である彼の倫理學説の根柢は聖書に在る。クロムウエルの血統を承けた彼の思想は清教徒的信仰のヘーゲルの表現である。私は思ふ。『生命を得るための死、死からの生命』これがキリストに在る神性であつて、神はキリストに由つて我等のうち到我等のために成就し給ふたものである。それは我等自身の業ではない。これを實現さすことが我等の業である。即ち自我實現である。(上巻四圓下巻五圓日本評論社版)

江原萬里著

聖書の現代經濟觀

此の度第二版發行、著者の署名希望の方は直接本社に其の旨明記して申込まれ度し。

定價一圓二十錢
送料八錢

聖書の眞理定價 (送料共)

- 一 部 二 十 錢
- 半年(六部) 一 圓 十 錢
- 一年(十二部) 二 圓 十 錢
- 海外一年分 二 圓 六 十 錢

拂込は振替東京六三三七五番
聖書の眞理社宛のこと

思想と生活 合本

- 第一卷 二 圓 送料八錢
- 第二卷 一 圓 八十 錢 送料六錢
- 第三卷 二 圓 三十 錢 送料八錢

昭和六年八月二十七日 印刷納本
昭和六年九月一日 發行

神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷三四三

編輯印刷 江 原 萬 里
兼發行人

東京市外濠谷町向山九七

發行所 聖 書 之 眞 理 社

名古屋市中區流川町一八

印刷所 一 粒 社 印刷所

東京市外柏木九四六

發賣所 獨 立 堂 書 房

振替東京一九四六八

(昭和三年二月十六日) 聖書之眞理 第四十七號

昭和六年九月一日發行
(毎月一圓一日發行)

本誌定價二十錢